**B-２　「効果的な支援のヒント」**

不登校で長く欠席していたクラスの児童生徒が久しぶりに登校したら，うれしくなり，少しでも長く学校で過ごしてほしいと思うものではないでしょうか？本人と話してみても，思ったよりも元気そうに見えるので，「もう１時間大丈夫かな？」，「午前中はずっといたらどう？」，「せっかくだから給食は食べていったら」などと聞くと，本人は「はい，分かりました」と答えてくれます。教師も安心して，「この調子なら，明日からも･･･」と思いますが，翌日から再び不登校児童生徒の欠席が始まってしまったという経験をお持ちではないでしょうか？この場合は，どのように考え，どのように対応したらよいでしょうか。

**（１）考え方 ： 「無理せず，焦らず，欲張らず！」**

もし「１時間の登校」を事前に本人と約束していたら，教師側はその約束を必ず守るべきです。というのも「１時間だけなら」という思いで登校した児童生徒の思いを裏切ることになるからです。そのことが，信頼関係にマイナスの影響を与え，本人への支援の効果も薄れてしまうかもしれません。さらに，本人との関係が悪くなるだけでなく，保護者との信頼関係にも影響を与える可能性も十分に考えられます。

不登校児童生徒が登校するに当たっては，こちらが想像している以上に無理をして登校していることを理解し，十分に気を配る必要があります。もしかすると，先生や保護者の期待に応えようと頑張って登校したのかもしれません。そうした見えない思いを推し量った上で，本人に関わっていくことが大切になります。では，登校を継続させながら，学校で過ごす時間を長くしていくためにはどんなことに気を付けて支援を行っていけばよいのでしょうか？

**（２）対応策 ： 「学校で過ごす時間を制限する！」**

学校で過ごす時間を約束する場合は，本人に無理をさせないように教師側が事前に時間を制限することが大切です。例えば，久しぶりに保健室に登校した児童生徒に対して「短い時間でもいいからいられるだけ学校にいよう」と話した場合は，どのくらい学校にいればよいのか分からず，本人を不安にさせてしまいます。一方，「久しぶりだから，今日はどんなに調子が良くても30分までにしよう」と伝えると，ゴールが明確になり本人にも安心感が生まれるのではないでしょうか。たとえ本人がもっといたいと言っても，「今日はもうこれで十分だよ」，「約束もしていたことだし，今日は無理せず帰ろうか」と話し帰宅させましょう。「もっといられたのに・・・」，「このくらいなら明日も学校に来ても大丈夫そうだ」などと思い，本人の自信につながったら，翌日も登校ができるかもしれません。始めは，時間の設定を短くしてスモールステップで支援を進めることで，学校で過ごす時間を少しずつ長くしていきたいものです。

もし目標をクリアできたら，どんなに短い時間であっても学校で過ごせたことをしっかりと認めます。今まで学校に来ることができなかった児童生徒が登校し，その時間が１分でも長くなったら大きな前進です。様々な不安を抱えながらも，一つの課題をしっかりと乗り越えた児童生徒を心から労いましょう。「今日は本当に頑張ったね」，「久しぶりで，だいぶ疲れたでしょう」，「あとはうちでゆっくり休もう」などと声を掛け，一歩ずつ一歩ずつ本人が前進していけるように支えることが大切です。

**～ま　と　め～**

**①　学校で過ごす時間を最初から長くするより，本人に無理をさせないことを第一に考**

**えましょう！**

**②　学校で過ごす時間を制限することで，本人に安心感を持たせながら，少しずつ学校**

**で過ごす時間を長くしていきましょう。**

**③　「学校で過ごせた」ことを労い，一歩ずつ前に進めるように支援をしていきましょ**

**う！**

③